

綴方(作文)の授業が許されない時代 「演劇」「銃口」を観て

戦争する為の教育

先月、三浦綾子さん原作の「銃口」という演劇を観て、共感し悔しさがあふれ涙がでてしまいました。

太平洋戦争の時代で、北海道の若い小学校教員が主人公でした。その頃

の教育は、戦争する為のもので、「教育勅語」に

「忠告愛国」を教えこんでいました。

そんな中、その教員は、子供達の個性を引き出す教育をし、民主主義を少し

でも守ろうとしました。しかし、たまたま誘われて「綴方の勉強会」に行っ

た為、3年後に逮捕されてしまいました。警察は勉強会の資料を「左翼の本」と言ったり、「お前は赤の手先だろう」と迫害・拷問しました。そして、無理やり退職させられ、召集令状がきてしまいます。一万、その若い教員が尊敬していた恩師は自分の信念を貫いたため拷問を受け命を亡くしてしまいます。このよう

未来の為の教育

な出来事は想像してもおつたぞうです。

「表現の自由」が当たり前の時代に生きている私にとって、この話は信じがたい、理不尽なことに感じ、怒りもこみ上げてきました。しかし、戦時中を生き抜くにはその人らしさを押し殺し、言

いたい事も言えずに目の

言いなりに生きなければならなかったのだと思います。

子供達を愛し、誠実な教育をしている人達が処罰されてしまうなんてとても恐ろしいことです。

国の未来を背負っていく子供達が誤った教育をされることは、国の損害であり、本当の意味で「国を愛する」ことにはならないと思います。

しかし今、「国を愛す

る」(国のいいなりにさせる)手を教え込む教育をするために「教育基本法」を変えようとする動きがあります。

憲法9条と共に教育基本法まで改悪し、戦争しようとする動きは絶対許せません。

当たり前の教育を受けられず、表現の自由を奪ってしまおうという国へは逆行させたくありません。

(の

6月7-9日(火-木)

企画環境常任委員会県内視察の第二弾(浜通り地区の施設9か所を視察)。

いわき市のある施設では古紙再生、水質保全・廃棄物・環境保護活動など力を入れている様子。

9日夜、青年との交流に参加。

6月10日(金)

「侵略戦争美化の教科書採択を許さない福島県実行委員会」による「教科書採択に関する要請」に県議団として同行、教育庁と懇談。



活動の合間にホット一息

6月11日(土)

第3回高久益教展を鑑賞。「おな石、千五穴」の表示につられて現地へ。(写真上)いわき市生涯学習プラザで第1回「浜通り歴史の道」講演会を聴講。

6月12日(日)

「原油高で操業ピンチ 漁船動けない」と新聞報道。5月24日政調会で共産党として当局をただしていた。

6月14日(火)

自民党県連幹事長坂本議員が亡くなったとの知らせ(中通り地区視察では一緒だった)を受ける。

6月15日(水)

「憲法改悪に反対するいわき市民集会」で決意表明。その後、先頭になっていわき駅までデモ行進。(主催者発表450名の参加)

6月18日(土)

JR只見線鉄橋落下事故現場を視察。金山町・三島町・只見町の共産党町議とともに金山町役場で現状の説明を聞く。(写真)

6月19日(日)

年に一度の隣組総会と懇親会でご近所の皆さんと親しく交流。



鉄橋落下の事故現場を視察中

6月20日(月)

知事あての「JR只見線にかかる林道旧橋りょう撤去工事事故に関する申し入れ」を農林水産部長に提出。

6月21日(火)

6月定例議会開会。福島市立福島第一小での教科書展示会場にかけ、問題の「歴史」「公民」教科書を拝見。(写真下)

6月22日(水)

わが息子の16歳の誕生日、夜お祝いの電話をする。

6月23日(木)

本会議。自民党の代表質問。

6月24日(金)

本会議。県民連合の代表質問。「かけはし43号」の日記(港に砂が堆積)について、読者の方からお手紙があった。たいへんありがたく、また団みになる。



教科書展示会場での様子

6月25日(土)

平和とくらしを守るいわき革新懇の第2回憲法学習講座を聴講。

6月26日(日)

第39回いわき市消防幹部大会に出席。